

論文

韓国における学問の自由の危機について

— 慰安婦問題をめぐる研究と教育が刑事事件になった柳錫春教授事件を中心に —

西岡 力（歴史認識問題研究会会長、
麗澤大学客員教授、モラロジー道德教育財団教授）

1 『反日種族主義』著者らへの圧力

私は本誌第8号（2021年3月19日発行）に、「最近の韓国のアンチ反日の動きについて」という論文を寄稿した。そこで、『反日種族主義』出版、慰安婦像撤去デモなどを紹介して、その動きを「アンチ反日」と位置づけた。その中で、「アンチ反日」の先頭に立っている李栄薫前ソウル大学教授や、柳錫春前延世大学教授らへの様々な圧力について紹介した。

その圧力は、今も続いている。

李栄薫前教授らへの刑事罰を求める動きが始まっている。2020年7月2日、韓国与党「共に民主党」所属で国会の外交統一委員長であった宋永吉議員^(注1)が、元慰安婦や元戦時労働者の遺族らとともに国会内で記者会見を開き、李栄薫氏と、講義中に『反日種族主義』を取り上げて大学当局から懲戒処分を受けた柳錫春・延世大教授らを、「歴史歪曲があまりにも深刻で到底黙過できない」と非難し、名誉毀損、死者に対する名誉毀損、国家保安法違反などで刑事告訴すると発表した。^(注2)

7月7日、元慰安婦ら10人が、名誉毀損と国家保安法違反で、『反日種族主義』の著者の李栄薫、朱益鍾（チュイッチョン）、李宇衍（イウヨン）の3氏と柳錫春・延世大教授の4人をソウル中央地検に刑事告訴した。告訴人は、元慰安婦で最近、挺対協を激しく批判して話題になった李容洙（イヨンス）氏と、元慰安婦の遺族3人、元戦時労働者の遺族3人、元海軍軍属で中国で戦死して靖国神社に祀られている故李花燮（イファソプ）氏の遺族1人だ。^(注3)

それに対して李栄薫前教授らは同じ7月7日、会見を開いて、自分たちの主張は学問的研究の結果であり、異なる学説を唱える人たちに公開討論をしようと繰り返し求めてきた。学問的討論を通じず、一方的に「歴史歪曲」と決めつける宋議員らの言動は、言論と学問の自由の重大な侵害だと主張し、7月13日、宋議員らを名誉毀損で逆告訴した。^(注4)

『反日種族主義』の著者が、元慰安婦や戦時労働者の遺族から刑事告訴されるのは、今回が初めてのことだ。第3者が行う「告発」とは異なり、名誉を毀損されたと主張する当事者が行う「告訴」だから、捜査が始まることは間違いなかった。

李栄薫氏らは、「これから長く厳しい法廷闘争を戦うことを覚悟している。学問の自由を守るため戦う」と語っている。

李栄薫氏らは2020年10月初め、警察に呼び出され事情聴取をされたが、起訴は本稿執筆段階の2022年1月段階でも捜査が続いており、検察の処分は決まっていない。宋議員らが名指しで批判した柳錫春前延世大学教授がついに2020年11月3日、ソウル地検に

よって在宅起訴された。そのことについては、本論文で詳しく論じる。

その上、李栄薫氏らの学問的主張を刑事処罰できる新法を作ろうとする動きも活発化している。

2 「歴史歪曲処罰法」制定への危険な動き

2020年10月12日、元老左派作家である趙廷来は、ソウルで開いた記者会見で、以下のような驚くべき発言を行った。^(注5)

「李栄薫という人が私の本について悪口を言っているが、新種の売国奴で民族反逆者」

「必ず民族精気を取り戻すため、歪曲された歴史を正しく立てるために『反民特委（反民族行為特別調査委員会）』を復活させなければならない。」

「150万から160万の親日派を全部、断罪しなければならないのだ。それがなされないとこの国には未来がない」

「土着倭寇と呼ばれる日本留学派、日本に留学してくると無条件で親日派、民族反逆者になる」

「日本の罪惡に対して擁護したり、歴史を歪曲する者らを懲罰する法制定運動が展開されている。私は積極的にその運動に参加しようと思う。法でそのような者たちを処罰しなければならない。『アリラン』を書いた作家の義務だと思う」

事態は予断を許さない。2020年4月の総選挙で6割の議席を得た左派与党「共に民主党」では、趙廷来と同じような発想から「親日称賛禁止法」を制定して、李栄薫前教授らはもちろん、歴史的事実に反する朝鮮人虐殺や慰安婦性奴隷化があったということを認めない者に、刑事罰を加えようという議論が高まっている。同党最高委員だった薛勳議員は、ネットメディアで「親日称賛禁止法」制定の必要性について、次のように語っていた。^(注6)

「同法を発議する計画がある。昨年露骨な親日歴史書である『反日種族主義』を出した李栄薫前教授などが、今度は『反日種族主義との闘争』という本を出した。これは慰安婦の歴史歪曲を反復し、被害者たちに対する二次加害をはばからないことだ。李前教授は、日本軍慰安所は『高収益市場、強制徴用はなかった』などの主張をくり返した。『強制動員被害者たちの陳述は嘘の行進』として大法院の強制動員賠償判決まで非難した」として、「親日称賛禁止法」で李栄薫前教授らを処罰すべきだ、と強調した。

そして、本稿執筆現在（2022年1月）与党の次期大統領候補である李在明氏が選挙公約として、日本軍慰安婦をはじめとする日帝強占期戦争犯罪の真実を歪曲したり否定したりする行為を厳格に処罰するために、「歴史歪曲処罰法」を作ると明言したのだ。^(注7)

李在明候補は2021年11月28日、全羅南道光州市を訪れて次のように語った。

「（ドイツは）ナチスの犯罪行為に対して賞賛・否認・歪曲する行為も処罰している」

「当然認められるべき歴史的事件に対して歪曲し、否認する行為を処罰する『歴史歪曲断罪法』を必ず作らなければならない。」

また、同日SNSを通じて「人権蹂躪の歴史を歪曲できないように、歴史歪曲処罰法を制定する」「独立運動を誹謗して親日行為を称賛する行為、日本軍慰安婦をはじめとする日帝強占期戦争犯罪と5・18民主化運動[1980年5月の光州事件のこと]など、反人倫的犯罪行為の真実を歪曲したり否定する行為を厳格に処罰する」と明らかにした。

3 柳錫春教授が講義内容を理由に刑事訴追

2019年9月17日、韓国の名門私立大学である延世大学社会科学部の「発展社会学」という講義で、著名な社会学者である柳錫春教授が、例年通り「韓国の発展において日本帝国主義植民地時代の役割についてどのように評価するか」という主題で、受講生と討論を行った。

その内容が秘密録音され、外部のマスコミに持ち込まれて柳教授は激しい非難を浴び、「発展社会学」講座は学期の途中で学校当局によって打ち切れ、柳教授は学内で停職1ヶ月の懲戒処分を受けた。^(注8)

騒ぎはそれで終わらず、講義の受講生ではない外部の運動団体「庶民民生対策委員会」(事務総長・金スンファン)と韓国挺身隊問題対策委員会(以下、挺対協、代表理事 尹美香(当時))が柳教授を刑事告訴した。そして、驚くべきことに韓国の検察は2020年11月3日、柳教授を名誉毀損罪で自宅起訴し、2022年1月現在、大学教授が講義の中で行った発言を理由に刑事裁判が進んでいる。

2021年10月13日に行われた第7回公判で、柳教授側は慰安婦の実態解明が必要だとして、元慰安婦李容洙氏、挺対協元理事長の尹美香議員、「慰安婦は軍が管理した公娼」という学説を主張している李栄薫元ソウル大教授、李容洙氏の証言の変遷を調べて彼女は強制連行被害者ではないという記事を書いたジャーナリスト黄意元氏と合わせて私、西岡力をも証人として採用するよう、裁判所に求めた。^(注9)

柳教授は拙著『よくわかる慰安婦問題』の韓国語版を熟読しており、日本の朝日新聞などのねつ造報道で慰安婦問題が発生したとする私の学説を強く支持していて、そのことを法廷で話してほしいということだった。私は学問の自由を守るという観点と、真実の上にこそ日韓友好があるという信念にたって、「裁判所が証人として認めたなら万難を排して出廷する」と答えた。

残念ながら2022年1月14日に行われた第8回公判で、私を含む上記5人の証人採用は棄却されてしまった。^(注10)

4 3つの争点、①「自発的に慰安婦になった」

柳教授は一体どのような発言で、刑事責任を問われているのか。それは次の3点だ。^(注11)

- 1、「日本軍慰安婦のおばあさんたちが売春に従事するため自発的に慰安婦になった」という趣旨で虚偽事実を発言して、慰安婦のおばあさんたちの名誉を毀損した。
- 2、「挺対協が、日本軍に強制動員されたと証言するように、慰安婦おばあさんたちを教育した」という趣旨で虚偽事実を発言して、挺対協の名誉を毀損した。
- 3、「挺対協の役員たちは統合進歩党の幹部であり、挺対協は北朝鮮と連携していて、北朝鮮に追従している」という趣旨の虚偽事実を発言して、挺対協の名誉を毀損した。

この3つの点について、柳教授は次のように具体的に反論している。

まず、1つ目の柳教授が「自発的に慰安婦になった」という虚偽発言をして、慰安婦のおばあさんたちの名誉を毀損した、とする検察の主張についての反論を紹介しよう。

柳教授は、講義中、「自発的に慰安婦になった」とは話していない。正確な表現は、慰安婦たちが「自意半、他意半」で売春行為に入るようになった、である。これは受講生の誰かが承諾なしに録音して、外部に公開したテープの記録にも残っている。

その部分のやりとりを、直訳で紹介しよう。^(注12)

○女子学生A

教授は先ほど慰安婦関連の話をなさいながら、途中で最後まで話さなかったようだったのですが、慰安婦として連行された女性の方たちは、自分で自発的に行ったと教授はおっしゃるんですか？ 強制的に連行されて行かなかったと。

○柳錫春教授

今、売春産業があるじゃないですか。現在、売春業はたいへん多いです、わが国に。よく知らないでしょう。若い学生はよく知らないですが、江南[ソウルの繁華街・訳注以下同]に行けばすごく多いんです。マッサージ[風俗営業する店も多い]とかなんだかんだと、ルームサロン[ホステス接待個室クラブ]が多いです、今。そこで今、女性たちがみんな働いているじゃないですか。その女性たちは自分で行きましたか。親が売ったんですか。どうやって行ったの。

○女子学生A

ということは、今いる売春婦と慰安婦を、同じカテゴリーとして見るということですか。そのように理解を。

○柳錫春教授

それと似たようなものです。

(「はい?」と発言して、疑問を示す別の女子学生がいた)

○女子学生A

それなら今まで。

○柳錫春教授

その人たちは生活が苦しくて、その売春業に入っていくのです、生活が苦しくて。今現在、売春をしている女性たちが多いじゃないですか。あの人たち、どうして売春をしたのだ。生活が困難で、家が困難で、自分がお金を稼げないから、その売春への誘惑が、そのような場合何も起きないわけではなく、「ここに来て働けば、少しだけ働けばたくさんの給料がもらえるよ、来て働け」こんな誘惑があって、そこに入って仕事をするじゃないですか。

○女子学生A

そうですが。

○柳錫春教授

今そうだということについては同意しますね。今もそうじゃないのですか。

○延世大学女子学生A

今はそうですけど。

○柳錫春教授

今はそうだけれども、過去にはそうでなかったと言おうとしているのですが、そうではなくて、昔もそうだったのだと。

○女子学生A

そうだとすると、教授のおっしゃることを私がしっかり理解したとすれば、過去に日本の植民地支配下で慰安婦として働いた全ての女性たちが、皆そのように自発的に売春女性として直接行って。

○柳錫春教授

今働く人達は自発的ですか。自意半、他意半[自分の意思が半分、外部の強制が半分]ですね。今も自意半、他意半です。

○女子学生A

私が知る限りでは。

○柳錫春教授

生活が苦しいからであって、自分が望んだからではありません。

柳教授は、「自意半、他意半」という用語を、貧乏という構造的条件に特定の個人が反応して慰安婦になるという状況を説明しようと選択した、と説明する。貧困から抜け出すためにお金を稼がなくてははいけないと考える過程に、民間の就職詐欺師が介入した状況について、「自意半、他意半」という表現をしたというのだ。

したがって、この発言は虚偽の発言ではなく、真実に基づいた発言である。柳教授は、講義の中で、売春に従事することになる慰安婦の選択が100%自発的だ、という趣旨の発言をしていない。

一方、柳教授は「自意半、他意半」という問題は、今日の売春にも同じように現れている問題だ、と指摘する。なぜなら、起訴状も認めたように、現在の性産業に従事している女性たちも、過去の慰安婦と同じく、「経済的見返りを得るために職業として売春に従事することを自発的に選択した」、と見るができないからだ。

だから、柳教授は、もし「自意半、他意半」のいう発言が虚偽発言であるなら、売春に関する学術的研究成果を根こそぎ否定する結果をもたらすだけだ、と強調し、自分の発言は過去に存在した、そして今日にも存在する売春の属性を比較研究する必要があることを強調した、講義室での学術的な発言に過ぎない、と主張する。

5 3つの争点、②「「挺対協が教育した」

次に柳教授が「挺対協が慰安婦お婆さんを教育した」という虚偽発言をした、という検察の主張についての反論だ。

その部分の柳錫春教授の発言を、翻訳して引用する。先ほどの女子学生Aとのやりとりが続く女子学生B、Cとのやりとりがあり、その後が続く男子学生Dとのやりとりだ。^(注13)

○男子学生D

李栄薫先生の言葉として、「最初の証言内容、慰安婦お婆さんたちの最初の証言内容と現在最近の証言内容が違う」ということが、李栄薫先生の『反日種族主義』に言及されている、と(柳錫春教授は)おっしゃいました。教授は「それを他の主張より信頼する」とおっしゃって下さったようです。

しかし、この慰安婦お婆さんたちの証言は、一人の証言がその内容が変わったとい

うことでなく、数十人という複数の多くの人たちの証言が存在し、わが国だけに存在するのではなく、海外各国にいる慰安婦被害者たちの証言が存在するのですから、一人の証言であるならば信憑性が落ちると言えるが、いろいろな地域、いろいろな国家の多くの人たちの証言の信憑性が落ちると話すのに対しては、私は少し考えが異なります。これについてどのようにお考えですか。おばあさんの証言の信憑性についての問題点です。

○柳錫春教授

その方々たちが「今話していることと、10年前、20年前、30年前に話していることが違う」ということを採取して、李栄薫の本に整理されています。

○男子学生D

はい、その証言が変わっていくことについて信憑性が落ちるという話について、私もそうかもしれないと思いますが、その証言がたくさんの人たちから出ているので。

○柳錫春教授

ですから、いわゆる挺対協が介入して、おばあさんたちをみな同じ場所に集めて、教育をさせるのですよ。それで同じことを言うようにさせたということ。挺対協がなかったら、彼女たちはばらばらに散ったまま、それぞれの人生を生きていたでしょう。過去に自分がその生活をしたことを、言いまくらなかったはずです。

今は一種のほらを吹いているのですよ。自分が昔にその生活をしていたことを話して、テレビに出て騒いでいるじゃないですか。昔には、日帝が終わった直後は、静かに帰ってきてそのまま生きていた方たちでした。その方たちが、歳月が経って、今、挺対協が介入して、国家的にあなたたちは被害者だとして、だから同じことを言っている人たちが集まって、自分たち同士で「リインプット」をするんです。お互いの記憶を新たにフォーマットして。

柳教授は、挺対協はこれまで30年間、毎週水曜日に開催するいわゆる「水曜集会」を通して、慰安婦おばあさんたちを持続的、そして周期的に集会に参加させ、挺対協の立場とスローガンを繰り返して聞き、一緒に叫ばせてきた、という事実を指摘し、この過程で挺対協は慰安婦たちに、「自意半、他意半」で慰安婦生活に入ったという事実から目をそらさせ、「強制動員」されたものと考えさせる効果を得た、と反論する。

そのことは、挺対協が1990年代から2000年代初めまでにシリーズで出版した本、『強制連行された朝鮮人軍慰安婦たち』(1~5巻)に登場する慰安婦たちの初期の証言と、慰安婦たちの最近の証言を比較すると明確に証明できる、と柳教授は主張する。

初期の出版物では、それぞれの慰安婦たちが「自意半、他意半」で慰安婦生活に入っていく過程を赤裸々に確認しているが、最近の慰安婦たちの証言は「強制動員」の方向に話しが変わっており、この証言の変化は、尹美香ら挺対協関係者が本などに書いている慰安婦「強制動員」の記述と一致する。柳教授は、このような変化の過程を「教育」と表現をした、と主張する。

6 3つの争点、③「挺対協役員は統合進歩党幹部」

3つ目の「挺対協の役員は統合進歩党幹部」という虚偽発言をした、とする検察の主張

への柳教授の反論だ。その部分を翻訳引用する。やはり先ほどの男子学生Dとのやりとりの続きだ。

○男子学生D

それでは挺対協が複数の多くの…。

○柳錫春

挺対協の核心幹部が統進党の幹部であることは知っていますか。挺対協の活動をしている人たちと統進党の幹部たちと、混じり合っています。それを知っていますか。証拠を私が後でお見せします。挺対協は、本当に純粋に慰安婦おばあさんたちだけのための団体ですか。大韓民国を壊そうとする団体です。慰安婦おばあさんたちを良い食べ物にしているのです。皆さんのような善良な人たちの、心の琴線に触れるのです。(中略)

「挺身隊おばあさん」というのが、最初から名前も間違っつけて、今名前を変えたのです。その団体が最初に作られて活動したことが、北朝鮮と連携しているものと私は思います。今、統進党[統合進歩党。2014年12月19日、韓国憲法裁判所は同党を「北朝鮮式の社会主義を実現しようとした。民主的基本秩序に反する」として解散命令を下した。同党は即刻解散、党所属の国会議員5人すべてが議員資格を失った。産経新聞2014年12月20日]の核心幹部が挺対協活動をしているのですよ。統進党は北朝鮮に近いことは認めるでしょう。

統進党を解散させたことが朴槿恵の過ちですか。統進党の李石基[地下組織をつくり、有事に韓国国内の重要施設を破壊する計画を立てたとして2013年9月、内乱陰謀罪などで逮捕された統進党の比例選出国會議員(当時)。2015年1月に内乱扇動罪と国家保安法違反で懲役9年資格停止7年の刑が確定したが、2021年12月文在寅大統領政権によって仮釈放された]のような奴らは、北朝鮮の手先です。北朝鮮に追従する人々が外延を広げることがを目的として、青年たちの義侠心に火をつけるために挺身隊問題協会という団体を作り、慰安婦おばあさんたちを利用しているのだ。

柳教授によれば、挺対協の「役員」が統進党幹部だと発言したのではなく、挺対協の「幹部」と統進党幹部が重なっているという趣旨の発言をした、という。そして、柳教授は、これは方ヨンスン、崔ジンミ、孫ミヒなどのような人物の存在で裏付けられる事実だという。

確かに、インターネットメディア「メディアウォッチ」2019年10月11日によると、正義記憶連帯(挺対協が改称)の方ヨンスン理事と崔ジンミ理事、そして挺対協の孫ミヒ元対外協力委員長は、統合進歩党で主要な活動をしてきた人物だった。

同記事によると、方ヨンスン理事は統進党全羅北道党委員長や統進党の第19代総選挙全州徳津の国会議員候補だった。崔ジンミ理事は2012年に統進党の第19代総選挙共同選挙対策委員会に参加し、統進党の後身である民衆連合党の金ソンドン大統領選候補の共同選挙対策委員長を務めている。孫ミヒ元対外協力委員長は統進党の第19代総選挙共同選挙対策委員会の委員長を務め、統進党の後身である民衆連合党(当時仮称、新民衆政党)創党発起人を務めている。

柳教授はこれらの事実を指して、挺対協の幹部と統進党幹部が重なっている、と発言したという。

7 柳錫春教授のバランスとれた講義

柳教授は結論として、「私がしたことは、講義室で学生たちと歴史的な事実、より具体的には慰安婦問題、そして慰安婦に関連した活動をする挺対協に関する様々な争点について、事実を基礎にした学術的討論をして、私の意見を表明しただけ」と語る。この反論は大変説得力がある。

それは女子学生B、Cとの次のような真剣な討論からもよくわかる。

○女子学生B

この方[女子学生A]がなされた質問と関連する話ですが、つい先ほど慰安婦を売春業と連結させて比喩されましたが、わが国の植民地としての特殊性、そのようなことは除外したとしても、最初から慰安婦というシステム自体が国家が犯した戦争犯罪、あるいは国家犯罪として理解できるので、それについて問題点だとお考えにならないのでしょうか。

○柳錫春教授

だから、売春というものが長く続いてきた産業です。人間の歴史といっしょに存在してきた。帝国主義国家が登場する前にも売春はあった、そうでしょう。そのようなものを、日本が戦争をするために戦時体制を作って、わが国に初めてそれを行ったのではありません。朝鮮時代にもあったし、中国にもあったし、米国にもあったし、ギリシャにもあったし、どこでもみなあった売春ですよ。今もあるし、これからもあるでしょう。

○女子学生B

ですから、あるということが、それが正しいということを…。

○柳錫春教授

その中の一つが…。

○女子学生B

ですからそれが正しいということを言える根拠は…。

○柳錫春教授

いいえ、正しいということではなくて、道徳的に正しくないことですが、それを「日本の国家、戦時国家だけが責任を負え」ということは間違いだ。

○女子学生B

そこ(日本)だけに責任を負えということではない、と私は理解しています。たとえば、いま毎週水曜集会[挺対協などが主催する日本大使館前の反日集会]をなさっているその団体の方たちは、日本に対することだけを話しているのではなくて、わが国から他国に、わが国の軍人たちが他の東南アジア女性たちを相手にしたそのような慰安婦問題に対して、問題を提起したその慰安婦被害者だと主張されるおばあさんたちに直接、謝罪されるそのような映像まで見たことがあるのですよ。だから、それを単純に日本軍の問題としてだけ集中するのではなく、それを国家犯罪や戦争犯罪のフレームの中で十分に、その中でさえも…。

○柳錫春教授

それよりももっと大きいフレームが必要な問題ですよ。日本という国家だけがそのよう

な犯罪を犯したのではなく、全世界の国家がそのような売春を黙認しているではないですか、今。オランダに行けば売春街がまだありますよ、先進国なのに。私は行って見ました。レッドライト街というところがあって、そこで普通に売春を公開的に行っています。オランダ政府がそのまま放置しているではないですか。なぜ、オランダ人らはそのままにしておくのか。

ですから、すべてのことを日本が悪いとだけ追求していこうとする、それが挺身隊対策協議会、その人たちです。わが国政府や米国政府やオランダ政府や、みな同じ問題を抱えているのであり、それを道徳的に正しくないと判断すべきでしょう。私も道徳的にはそう考えます。そうですけど、それがあのです。それがあを、日本だけ抜き出して非難するのか、それは異常ですよ。

○女子学生B

けれども、とにかくわが国が経験したことに対して、直接的な加害者が日本だから、わが国がその問題について敏感であるしかない…。

○柳錫春教授

直接的な加害者は日本ではないのですから、売春の一種ですから。

○女子学生B

ですから売春について、売春を犯した主体が日本政府だったのではないですか。

○柳錫春教授

わが国の男たちもいたはずですよ。

○女子学生B

個別男性の国家について話しているのではなくて。

○柳錫春教授

いいえ、それでは朝鮮時代に売春があったのですが、朝鮮政府が責任をとらなければならないのか。そのことは言わないで、なぜ、日本だけを抜き出してその話をするのか。理解できませんか。今質問するアングルが、日本を憎むフレームに閉じ込められているのだぞ。全世界にユビキタス（遍在）するのが売春です。歴史的に、昔から今まで継続してあったし、今後もあるだろうと私は考えている。道徳的には正しくないが、あるのが現実です。ところで、間違いを犯す人たちはどれほど人間関係が絡み合っているのか、今、挺身隊問題を話す人たちは日本だけを抜き出して、日本の問題だとして話すのです。異常ではないですか。

○女子学生B

それでは日本に対する問題提起はないものとして、売春に対する教授の意見は。

○柳錫春教授

するのであれば、日本だけでなく全ての国に対して問題提起をするのか。今、大韓民国政府も放置しています。文在寅も放置しています。江南[ソウルの繁華街]に行ってみて下さい。どれくらい多くの売春があるのか、知らないふりしているではないですか。インターネットに入ってみて下さい。私にも「お兄さん、何かしましょう」と毎日言ってきます。みなさんもみな経験しているのではないですか。今、インターネットをつけてみればああでもない、こうでもないと言っているのに、毎日それを文在寅政府が放置しているのではないですか。その話をなぜしないのか、全部一緒に話すべきですよ。

○女子学生C

ところで、継続して売春とおっしゃるのですが、私は事実上、これは売春ではなく、国家が主導した就業詐欺であり、性犯罪だという考えをしています。この点についてどのようにお考えですか。

○柳錫春教授

これだけ話をしてきたのにそのように言うなら、もう言うことはないですね。

○女子学生C

今、継続してお話をしているのは、こちら側（質問している学生側）が申し上げたのは、国家が主導した犯罪であるため、これは責任の所在を明確にしなければならないことであり、日本が主導したことだ。

○柳錫春教授

今、李米薫が言っているのですよ、「民間が行って国家が放置」していたことです。それが事実です。「日本、日本国家、日本軍隊が主導したものではない」という話です。ところが、みなさんはそうだと思っているでしょう。それが間違っていると話しているのです、私は。メンタル崩壊が起きますよ。この間考えてきたことが、自分が間違っって認識していた。間違っって認識していると指摘しているのですから、メンタル崩壊が起きるはずですが、間違っって認識しているのですよ。「日本国家が、日本軍隊が売春を主導した」と思っているでしょ。「それは間違っている」という話をしているのです。李米薫や私や多くの人たちが、本人の意思についてこう話しているのです。今、売春業に入っていく人たちは100%、「私、積極的に売春しよう」と思って入っていきますか。そうではないです。売春に対する疑いと躊躇がありながらも、ひきずられて入って行きます、なし崩し的に。それで売春が生まれます。その過程が同じようにあったのです。

以上のやりとりは、まさに大学の講義室で慰安婦問題について異なる考えを持つ教授と学生が、学問の場で真剣に討論する姿だ。これこそ、学びの場と言えよう。だから、柳錫春教授の講義は大変バランスのとれた、素晴らしい講義だ。^(注14)

8 柳錫春事件の本質は学問の自由の危機

講義に出席した学生の誰かが、教授と他の学生の同意を得ることなく質疑応答を秘密録音して、左派メディアにテープを公開して、教授を一方的に攻撃した。そして、それが刑事事件となったのだ。

このやりとりが刑事事件となるなら、大学の講義や学術書・論文など、慰安婦問題を学問的に取り上げることが不可能になりかねない。これは柳錫春教授だけの問題ではない。韓国以外の日本を初めとする関係国での議論に対しても、刑事訴追が起きる可能性があることを意味する。

検察は大学教授が大学の講義で行った発言を問題として、刑事事件の犯人として裁判にかけている。これはあきらかに学問の自由に対する侵害だ、と言わざるを得ない。

私を含む、日本、米国、韓国の学者はこの韓国検察の起訴に対して強い危機感を抱き、8月13日に「柳錫春元延世大学社会学科教授に対する起訴を憂慮する日韓米学者共同声

明」を発表した。^(注15) そこでこう述べた。

《私たちは今回の検察の起訴が韓国的高等教育に対する深刻な侮辱だと考えます。大韓民国は朝鮮戦争の焼け野原から立ち上がり、現在はその所属する地域ではもちろん国際社会でも相当な影響力を持つ自由民主主義国家です。ここ数年間、韓国的高等教育システムは一層の発展を遂げており、今日では、世界中の学生が韓国の大学に進学しています。しかし、残念なことに今回の柳教授に対する起訴は、開かれた討論と自由な意見交換がなされなければならない象牙の塔にも「検閲の文化」が次第に忍び込んでいることを示しています。私たちは大学において学問の自由と表現の自由は断固として保護されるべきだと思います。》

日本人学者17人、韓国人学者30人、米国人学者25人が署名している。米国人署名者の中には、左派学者Noam Chomsky (Professor Emeritus, Massachusetts Institute of Technology) が含まれている。慰安婦問題に関する柳教授の学説に同意はしないが、大学での講義が理由で刑事事件の犯人として起訴されている韓国の現状を、学問の自由の危機とみるという点で意見の一致を見た学者が多数いるということだ。

引き続き、この裁判について、世界の学者らが学問の自由という観点から注視し続けていくべきだ。私はできる限りのことをして、柳教授を支援する覚悟でいる。

注

1. 宋永吉議員は2021年5月1日、与党「ともに民主党」の党代表に選出された。
2. 『『反日種族主義』の執筆陣を元慰安婦らが告訴へ 韓国の歴史認識裁判が再発』産経新聞電子版 2020年7月3日
3. 「『現場映像』強制徴用被害者たち柳錫春・李栄薫 検察告発、柳錫春・李栄薫『逆告訴』」KBS2020年7月7日
4. 「『反日種族主義』の筆者らが逆告訴」産経新聞電子版2020年7月13日
『『我々の本を読みもせず』、『反日種族主義』著者たち、『宋永吉議員らを逆控訴することにした』』ニュースサイト『ペンアンドマイク』(韓国ネットニュースサイト) 2020年7月7日
5. 「趙廷来『李栄薫は新種売国奴、親日派断罪すべき』」『ノーカットニュース』(韓国ネットニュース) 2020年10月12日
「趙廷来『李栄薫は新種売国奴…日本に留学してくれば無条件で親日派になる』」(韓国)『アジア経済新聞』電子版2020年10月12日
趙廷来は80年代に「太白山脈」という、日本統治の終焉から朝鮮戦争までの時期を扱った全10巻の現代史大河小説を書き、合計700万部も出る大ベストセラー作家となった。80年代に大学に通った者たちの大多数がむさぼり読んだ小説だ。これを読んで反共意識を捨て去った者が多い。建国直後の韓国を転覆するために武力蜂起した共産主義ゲリラの活動を同情的に描いて物議を醸し、国家保安法違反容疑で捜査されもした。
その後、趙廷来は日本統治時代を舞台にした「アリラン」という全9巻の大河小説を書き、こちらも350万部のベストセラーになった。しかし、「アリラン」では日本警察が裁判もなしに罪に定めて、衆人環視の下で朝鮮人を射殺するなど、荒唐無稽な反日叙述が多い。李栄薫前教授から「狂気がこもった憎悪の歴史小説」「捏造だ」などと、厳しく批判されていた。
6. 韓国『Eデイリー』電子版2020年5月14日
7. 「李在明、光州を訪れ『歴史歪曲処罰法作る』」『京郷新聞』電子版2021年11月28日
8. 「全文・延世大学柳錫春教授の『慰安婦発言』録音記録公開」『メディアウォッチ』(韓国ネットニュースサイト) 2020年1月24日

柳錫春教授はその日の「発展社会学」講義で、現在の韓国でも貧困などの理由で売春業に従事している女性たちがいることを指摘した。それに対して受講生の女子学生Aが反論を提起し、14回にわたるやりとりがあった。その中で柳錫春教授が、「知りたければ一回やってみたらどうか」と発言した。その発言を含む講義録が外部マスコミに持ち出され、教え子に売春を勧めたセクハラ発言だと問題になった。

しかし、柳錫春教授はその発言の直前に「私も関連する本だけを読みました。慰安婦当事者を直接研究したことはありません。」と2回にわたり説明している。柳錫春教授は、「知りたければ一回やってみたらどうか」という発言は、慰安婦に関する研究をしてみたらどうかと勧めたものであって、決して売春を勧めたものではないと反論している。ところが、延世大学は柳錫春教授が女子学生にセクハラをしたとして、同講義を学期途中にもかかわらず即時停止した上、柳教授に停職1ヶ月の懲戒処分を下した。柳錫春教授はその処分は不当だとしてソウル地裁に停職処分無効確認訴訟を起こした。2022年1月現在、係争中だ。

9. 『『慰安婦売春発言』柳錫春、李容洙・尹美香証人申請』『聯合ニュース』2021年10月13日
10. 柳錫春教授が西岡に直接連絡。
11. 「＜日韓法律家共同声明1周年シンポジウム記録＞韓国側参加者：金基洙・李宇衍・柳錫春・李柱天。日本側参加者：高池勝彦・岡島実・西岡力・高橋史朗。」「歴史認識問題研究」第8号、2021年3月19日、歴史認識問題研究会。以下、柳錫春教授の反論は、特別に引用先を示さない限り同上による。
12. 前掲『メディアウォッチ』2020年1月24日記事から西岡力が訳した。同記事と後掲2021年1月12日記事で、メディアウォッチは挺対協が裁判所に提出した柳錫春教授の講義録音記録を入手し、それを公開した。本論文ではその録音記録を訳出した。
13. 「全文・柳錫春授業録音記録『慰安婦は売春の一種、日本だけに責任を負わせるべきものではない』』『メディアウォッチ』2021年1月12日
14. 柳錫春教授の当該講義「発展社会学」はどのように進められていたのか。その講義の中で慰安婦問題はどのように位置づけられていたのか、について、柳錫春氏が裁判部に提出した「被告人意見書」（2021年10月12日）に詳しく書かれている。その概要は以下の通りだ。大変バランスがとれた、学問的水準の高い講義だ。

「発展社会学」と名付けられているこの講義の目的は、大韓民国が発展したと認めて、その理由が何なのかを明らかにすることだ。過去10年余り、同じ方法で講義を進めてきた。

講義は、「大韓民国の発展における日本の植民地時代の役割をどのように評価すべきか」というテーマから始まる。植民地時代を「収奪」の時代とだけ見て接近するなら、建国後に成立した韓国の飛躍的発展過程を完全に理解することが困難だという教授の見解が、最初に伝えられる。

この問題提起を学生たちに受け入れさせるために、いくつかの質問を続ける。「1961年の朴正熙將軍による5・16軍事革命以降に成し遂げられた高度成長は、朴正熙政権の役割があったから可能だったのか」、ほとんどの学生は「そうではない。国民が一生懸命働いた結果だ」と、言っても言わなくてもよい答えをする。

教授の質問が続く。「国民が一生懸命働かない時期はあったか」「北朝鮮が貧しいのは、北朝鮮住民が一生懸命働いていないからか」「開発途上国でも国民が一生懸命働かなかったから貧しいのか」、ここまで来ると学生たちの抵抗がかなり弱まる。

質問は続く。「それなら朴正熙政権の前段階である李承晩政権の役割が、大韓民国の発展に寄与した面はないのか」と。再び学生たちは反対する。李承晩は親日派を使って建国した、朝鮮戦争ですべて破壊された、戦後は援助経済がすべてだった、不正腐敗が蔓延したなどの理由を挙げて、「絶対に違う」と反発する。

そこで次の質問を投じる。「それでは皆さんは朴正熙ものの役割も認めず、李承晩でもないと言うのなら、結局その前の段階である日本の植民地支配時代に、発展の種がまかれたと思うか」。ここでは学生の多くはあっけに取られる。

質問は続く。「発展が天から降ってきたわけではないのなら、発展の歴史的なルーツがなければならぬのに、朴正熙でもなく李承晩でもないのなら、植民地時代にならざるを得ない」「まさか皆さんは、国を失った旧韓末（朝鮮王朝末期）が大韓民国の発展の起源だと考えるのか」「旧韓末から、35年間植民地支配の搾取、米軍政3年、李承晩政権12年も否定し、突然朴正熙18年につながり発展を遂げたのか」「それもそうでないなら、大韓民国の発展は根も葉もない、突然現れた朴

正熙という人物の個人的なカリスマ性のおかげだ、と考えるべきなのか」

学生たちは沈黙する。なぜならこれまで彼らが習ってきた現代史の授業では、このような質問は投げかけられないからだ。このような質問に直面してはじめて、学生たちの頭の中に、植民地時代と李承晩政権の時期を再評価する必要がある、と考える空間が設けられる。ここで論争が終わるわけではない。論争は次の段階でさらに激化する。

その次の段階で、慰安婦問題を含む日本統治時代の歴史の真実を学生らに示す、というのだ。

まさにタブーに挑戦して真の学問を教える、素晴らしい講義だ。

15. 歴史認識問題研究会サイトに全文がアップされている。<http://harc.tokyo/?p=2231>